

## 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 28

## 目次

・特集：不育症と精神支援	1
・第9回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・平成23年度研究助成のお知らせ	4
・掲示板：文部科学省及び厚生労働省情報	4
・これから行われる学術集会・研修会情報（2011年4月～9月）	5
・第7回生殖看護実践セミナーのお知らせ	5
・勉強会報告（関西地区、九州地区）	6
・各地区で開催する勉強会の支援	6
・理事会報告	7
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.9	7
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら	8
・事務局からのお知らせ	8



## 特集：不育症と精神支援

中塚 幹也 岡山大学大学院保健学研究科 教授

岡山大学病院産婦人科不育症外来医師

不育症とは妊娠はするものの流産、死産、早期新生児死亡などで子どもが得られない状態です。最近、新聞やテレビでも「不育症」という言葉が広まってきました。私が「不育症」と出会ったのは、研修医の頃に初期流産を繰り返す女性を担当したときです。その頃は検査法も限られており、子宮の形態、染色体、耐糖能や甲状腺機能、通常の凝固検査で異常はなく、「さてどうしようか?」と思った記憶があります。海外では、原因不明の習慣流産（3回以上連続した初期流産）に対して「夫リンパ球による免疫療法」が行われているらしいと知り、文献を取り寄せて読み始めました。20年以上も前のことです。現在では、この治療の有効性は確認できず、ほとんど行われていない状況です。また、当時は抗リン脂質抗体である抗カルジオリピン抗体やループス抗凝固因子が陽性の不育症女性に対して、プレドニゾロンと低用量アスピリンの併用療法が盛んに行われていました。しかし、現在ではヘパリンと低用量アスピリンの併用療法が主流となっています。このように不育症治療は大きく変遷しています。

2008年度からは、厚労省の子ども家庭総合研究事業の一環として、全国の拠点施設が集まり不育症研究班ができ種々のことが明らかになってきています。不育症女性は約16人に1人の割合でいるらしいこと、リスク因子には子宮形態異常7.8%、甲状腺異常6.8%、染色体異常4.6%、抗リン脂質抗体症候群10.2%、第XII因子欠乏7.2%、プロテインS欠乏7.4%などがあることが明らかになりました。また、専門施設で治療をした場合に8割以上が無事に出産していることもわかりました。これらのデータは、この研究班のホームページであるFuiku-Labo (URL: <http://fuiku.jp/index.html>) でご覧いただけます。

それにしても依然として、不育症の原因は不明な場合も多く見られます。新しい検査として抗PE(フォスファチジルエタノールアミン)抗体など各種の抗リン脂質抗体の測定もできるようになり、現在そのような抗体が不育症の原因かどうか明らかになるようとしています。しかし、原因不明で手探り状態の治療が長年行われてきたこともあり、不育症を専門にしようという産婦人科医も、また治療の拠点もまだまだ少ないのが現状です。

各医療施設で様々な研究が行われていますが、私達は原因不明の不妊症女性の中に子宮動脈の血流不良の一群があることを報告 (Hum Reprod 17: 190-194, 2002) しています。その後も研究室のテーマとして不妊症女性の血管障害の研究を続けており、不妊症女性、特に抗リン脂質抗体陽性女性の中には、20~30代ですでに全身的にも血管硬化が始まっている症例があることもわかりました。このため、無事に生児を得た後も血圧や体重などの管理が必要であることを説明するようにしています。

私達のもう1つの研究テーマは、不妊症女性の精神支援です。岡山大学病院でのグリーフケアに加え、岡山大学大学院保健学研究科では岡山県不妊専門相談センター「不妊・不妊とこころの相談室」も運営しており、カウンセリングの実践と研究を行っています。私の研究室 (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~mikiya/index.html>) の大学院生(看護師、助産師)、学部生の研究の一端を紹介してみましよう。

不妊症女性が流産や死産をしたときの環境と気持ちについての研究(2008年)では、岡山大学病院不妊症外来を受診した109名の女性に流産時の病院の環境について尋ねました。41.0%の女性が流産時の環境を「良くなかった」と回答し、他の妊産婦との同室だったり、赤ちゃんの声が聞こえたりした女性は「辛かった」との回答が有意に高率でした。医療スタッフの嫌な対応としては、「放っておかれた」「話しかけにくかった」「気持ちを理解してくれていないと感じた」「泣くのをやめるよう言われた」「よくあることだと言われた」「確信もないのに『大丈夫』と言われた」などが挙げられました。

家族だけではなく医療スタッフも、流産や死産をした女性に何と声をかけて良いかわからず、腫れものに触るような対応になってしまいがちです。流産や死産がなかったことのように、流産の話題に触れなかったり、死産した子どもと対面させなかったりということもありました。しかし、亡くなった赤ちゃんのことを話したいと思っている女性も多く見られます。子どもと出会い、別れるという過程も、悲しむことなく妊娠が終結すると、気持ちの整理ができない例も見られます。

流産時には、声を出して泣くなど悲しみを表出でき、家族だけで過ごすことができるような場所を提供することは重要です。また、亡くなった赤ちゃんを沐浴させたり、手作りのベビー服を着せたり、手形や足形をとったり、一緒に写真を撮ったりといったことも行っています。亡くなった赤ちゃんに会いたいかどうか、何をしたいか等は本人の意思に任せていますので、現在のところ赤ちゃんに会うことでPTSD(心的外傷後ストレス障害)などを発症した例は見られていません。このようなグリーフケアは一見、不妊症女性のために行っているように見えますが、医療スタッフも積極的に傾聴、共感する姿勢を持つことができます。このため、グリーフケアにたずさわる看護スタッフへの調査でも、多くが、やりがいがあり負担にならないと回答しました。

不妊症女性75名の初診時の精神的状態を顕在性不安尺度(MAS:Manifest Anxiety Scale)を用いて評価した研究では、不安障害領域に属する女性は8.0%、うつ病領域に属する女性は6.2%存在していました。これらは、流産回数や生児の有無と関連しており、子どもを持っていてもその後流産を繰り返した女性は却って不安が強いこともわかりました。流産しても「子どもがいるから、支援がなくても大丈夫」とは言えないということです。

2010年からは、約200名の妊婦の不安などを縦断的に見る調査を行っており、妊娠初期と中期の解析結果が出たところです。当然ながら妊娠初期の「流産の不安」は、不妊症群の方が正常妊婦群に比較して有意に高いのですが、妊娠による「束縛感」は正常群では妊娠初期から中期にかけて有意に低下するのに対して、不妊症群では少なくとも妊娠中期まで続いており、不妊症群では「思うように行動できない」との回答も有意に高率でした。しかし、State-Trait Anxiety Inventory (STAI) の特性不安では両群間に有意差は認められず、もともと普段からの不安に対する反応傾向が両群で異なっていたわけではないと考えられました。この研究では、不安以外にも興味深い結果が出てきており、今後の精神的支援への示唆を得るには価値のある研究になるのではないかと考えています。

やさしさに包まれるような精神的なケアである Tender loving care (TLC) が、流産を予防するかどうかは今後の検討が必要ですが、少なくとも妊婦の不安を和らげることには役立つと考えます。今後、不妊症女性の支援を行う看護スタッフが増えることを期待しています。

<著者連絡先> 中塚幹也 岡山大学大学院保健学研究科  
〒700-8558岡山市北区鹿田町2-5-1  
Tel: 086-235-6895 Fax: 086-235-6895  
E-mail:mikiya@cc.okayama-u.ac.jp

流産をくりかえす人の

85%が

無事に出産までたどりつきます。

40%の女性が生涯に流産を経験します。  
妊娠しても流産や死産をくりかえしてしまう場合、それは「不妊症」です。  
原因は人それぞれですが、検査と治療によって85%もの不妊症患者が  
出産にたどりつくことがわかっています。  
みきらめる前に検査と治療を受けましょう。

厚生労働省不妊症研究班



**第9回日本生殖看護学会学術集会のご案内**

2011.9.11 (日) 開催 於：北里大学 白金キャンパス

今や、年間約2万人の子どもがARTで誕生する時代となり、生殖医療の発展に伴い、生殖看護が果たさなければならない役割も非常に重要となってきています。生殖看護の役割は不妊治療時のケアだけにとどまらず、生涯に渡る生殖能力維持のための予防教育とケア、遺伝学的視点によるアセスメント能力、第三者の配偶子や受精卵による出産を希望する場合には家族発達視点からのカウンセリング能力、さらに、がん治療前の配偶子、胚凍結による妊孕性温存の支援など、様々な看護領域と協働し、その専門的役割を果たすことが期待されています。

そのため、本学術集会では生殖看護の拡大と発展をテーマに、妊孕性維持の支援に焦点を当てていきます。そこで、教育講演では塩田恭子先生による「妊孕性温存療法における自己選択」のテーマで、がん患者の性腺温存外来での概要や自己選択支援についてご講演いただきます。また、シンポジウムでは生殖看護、遺伝看護、がん看護、家族看護の第一人者のシンポジストによる「リプロダクティブヘルスを目指した専門看護領域とのコラボレーション」をテーマに、各専門領域からの生殖看護への期待、具体的な連携への提言など、今後の生殖看護の発展にむけて講演いただきます。一般演題口演・示説の場も含めて、本学術集会の参加様お一人おひとりと熱く活発な討議ができますようプログラムの準備を進めております。

どうぞ、渋谷から15分でアクセスできます北里大学白金キャンパスでの学術集会を北里の風と共に存分に楽しんでいただけますよう、会員の皆様を心よりお待ちしております。(学術集会長 上澤 悦子)

## ♡ 学術集会概要

9:00～9:10	オリエンテーション
9:10～9:30	会長講演「ヒトの妊孕性と生殖看護」北里大学看護学部生涯発達看護学准教授 上澤悦子
9:30～10:20	教育講演「妊孕性温存療法における自己選択」聖路加国際病院生殖医療センター部長 塩田恭子先生
10:30～11:30	一般演題(口演)
11:45～12:30	ランチョンセミナー「rFSH製剤の薬理作用と自己注射」(株)メルクセローノ
12:40～13:20	総会
13:30～15:00	一般演題(ポスターセッション) 一般演題(口演)
15:10～17:00	シンポジウム「リプロダクティブヘルスを目指した専門看護領域とのコラボレーション」 「遺伝看護の立場から」聖路加看護大学 母性看護学・助産学准教授 有森直子先生 「がん看護の立場から」慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科 慢性臨床看護分野教授 小松浩子先生 「家族看護の立場から」大阪府立大学看護学部家族看護学分野教授 中山美由紀先生 「生殖看護の立場から」聖路加看護大学看護実践開発研究センター教授 森明子先生
17:00	閉会

\*教育講演やシンポジウムのテーマは変更の可能性があります。

## ♡ 参加申込み方法:

郵便振込にてお手続き下さい。事前申込みは8月31日(水)までです。

## ♡ 一般演題・ポスターのお申込み方法:申込みはメールでのエントリーとします。

演題申込みは4月30日必着、演題抄録の締切は5月21日必着です。

なお、用紙はHPからダウンロードできます(3月末からダウンロード可といたします)。

## ♡ お問い合わせ先:

第9回 日本生殖看護学会学術集会事務局(担当:鳥袋香子 新井陽子)  
〒252-0329 神奈川県相模原市南区北里2-1-1 北里大学看護学部内  
TEL 042-778-9281(代表) TEL/FAX 042-778-9825  
学術集会専用 e-mail: jsfn9@nrs.kitasato-u.ac.jp

## 平成23年度研究助成のお知らせ

会員の皆様の研究活動支援として、研究助成制度を設けています。

詳細および申請書類につきましては学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) をご参照下さい。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

### 研究助成募集要項

#### 【研究助成の趣旨】

生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

#### 【助成の対象】

個人又は共同の研究者を対象とする。

#### 【応募資格】

1. 研究代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

#### 【助成金】

研究助成金は研究計画一編につき10万円を限度とし、当該年度の研究助成は2件までとする。

#### 【研究助成期間】

平成23年9月1日～平成24年8月31日までの1年間とする。

#### 【応募方法】

1. 学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、2部（正1部、副1部）を下記担当者宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2. 応募受付期間：平成23年4月1日（金）～6月30日（木）

#### 【選考及び助成の決定】

研究助成審査会において選考審査の上、平成23年8月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

#### 【助成金の使途】

研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

#### 【研究成果の報告】

1. 助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2. 研究成果は2年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3. 研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

<お問い合わせ・申請書類送り先>

長岡 由紀子（将来検討委員）

茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科

〒300-0394 茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2

Tel: 029-840-2136 E-mail: nagaoka@ipu.ac.jp



### 掲示板

### 文部科学省及び厚生労働省情報

生殖補助医療研究目的で行うヒト受精胚の作成・利用に関する「ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針」が、平成23年4月1日に施行されます。

本指針においては以下を規定しています。：①ヒト受精胚の作成に必要な配偶子（精子、卵子）の入手の条件、②インフォームド・コンセント、③作成されるヒト受精胚の取扱い、④配偶子の提供機関と研究機関の体制、⑤研究実施の手続き、⑥個人情報の保護等。詳細については、下記をご参照ください。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/22/12/1300239.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/12/1300239.htm)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000z3hh-att/2r9852000000z3nh.pdf>

## ◎◎これから行われる学術集会・研修会情報 (2011年4月～9月)◎◎

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP 及び運営事務局
2011年 4月	15日～17日	日本産科婦人科学会 (第63回)	大阪国際会議場 / リーガロイヤルホテル大阪 (大阪市)	<a href="http://www.jsog.or.jp/">http://www.jsog.or.jp/</a> 第63回日本産科婦人科学会学術講演会運営事務局 (株) コングレ内 Tel:06-6229-2555 Fax:06-6229-2556
6月	3日	日本不妊カウンセリング学会 (第10回)	ニッショーホール (東京都港区)	<a href="http://www.jsinf.com">http://www.jsinf.com</a> メディカルブレインサービス Tel:03-3533-6531 Fax:03-3533-6532
	4日・5日	不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座 (第28回)		
	11日	日本母性看護学会 (第13回) 「周産期ハイリスクケアの構築」	自治医科大学 看護学部 (栃木県下野市)	<a href="http://www.mcn.ac.jp/bosei/">http://www.mcn.ac.jp/bosei/</a> 自治医科大学看護学部内 (担当: 齋藤) Fax:0285-58-7516
	11日・12日	日本保健医療行動科学会 (第26回) 「保健・医療現場におけるリスクコミュニケーション」	大阪医科大学 看護学部 (大阪府高槻市)	<a href="http://jahbs.info/">http://jahbs.info/</a> 第26回日本保健医療行動科学会学術大会事務局 大阪医科大学看護学部 元村研究室 Tel:072-684-7267 Fax:072-684-7267
	12～16日	性の健康世界学会:WAS (第20回)	グラスゴー (英国)	<a href="http://www.kenes.com/was">http://www.kenes.com/was</a>
7月	3日～6日	ヨーロッパ生殖医学会:ESHRE (第27回)	ストックホルム (スウェーデン)	<a href="http://www.eshre.com/">http://www.eshre.com/</a> ESHRE Central Office
	23日・24日	日本女性心身医学会 (第40回) 「痛みと女性」	東京慈恵会医科大学 (東京都港区)	<a href="http://www.jsfog.com/">http://www.jsfog.com/</a> プランニングオフィス・アクセスブレイン TEL:03-3839-5037 Fax:03-3839-5035
	17日～19日	遺伝医学合同学術集会2011 日本遺伝カウンセリング学会 (第35回) 日本遺伝子診療学会 (第18回) 日本家族性腫瘍学会 (第17回)	京都大学 百周年時計台記念館 (京都市)	<a href="http://www.jsjgc.jp/">http://www.jsjgc.jp/</a> 遺伝医学合同学術集会2011 事務局 京都大学大学院医学研究科医療倫理学・遺伝医療学 Tel:075-753-4647 Fax:075-753-4649
8月	4日・5日	日本看護学会:母性看護・小児看護 (第41回)	文京シビックセンター / 文京区区民センター (東京都・文京区)	<a href="http://www.nurse.or.jp/">http://www.nurse.or.jp/</a> 日本看護協会看護研修学校管理部教務係学会担当 Tel:042-492-7211 Fax:042-492-7213
	9日・10日	日本受精着床学会 (第29回) 「ART は人類の幸福に貢献できるのか」	京王プラザホテル (東京都新宿区)	<a href="http://www.jsfi.jp/">http://www.jsfi.jp/</a> 大会事務局:加藤レディスクリニック内 TEL:03-3366-1073 Fax:03-3366-3908
9月	11日～13日	世界体外受精会議 (第16回)		
	11日	日本生殖看護学会 (第9回) 「妊娠性維持の支援、生殖看護の発展を目指して」	北里大学 白金キャンパス (東京都港区)	<a href="http://jsin.umin.jp/">http://jsin.umin.jp/</a> 北里大学看護学部 (上澤) Fax:042-778-9385
	29日・30日	日本母性衛生学会 (第52回) 「性」から「生殖」へ、そして「母性」へ	国立京都国際会館 (京都市)	<a href="http://www.bosei-eisei.org/">http://www.bosei-eisei.org/</a> (株) MA コンベンションコンサルティング Tel 03-5275-1257 Fax 03-5275-1192

\*2011年2月7日現在の情報です。詳細は各学会・学術集会事務局へお問い合わせください。

## 第7回生殖看護実践セミナーのお知らせ

教育推進委員会: 森 恵美、阿部正子

第7回生殖看護実践セミナーは、2011年9月10日(土) 午後に行う予定です。

テーマは『**育児希望のあるがん患者への支援を考える (仮)**』で、がん看護専門看護師の神津三佳氏を講師にお迎えし、育児を希望するがん患者や家族への支援のあり方について、講義とグループディスカッションによる意見交換を通して理解を深められる構成となっています。

どうぞ皆様のご参加をお待ちしています。なお、詳細は、次回のニュースレターでお知らせいたします。

## 勉強会報告

## 第3回関西地区勉強会 報告

報告者：IVF 大阪クリニック

小松原千暁

英ウィメンズクリニック

藤田 陽子

神戸市立医療センター中央市民病院 小西真千子

平成23年1月30日（日）IVF 大阪クリニックにて第3回関西地区勉強会を開催いたしました。寒い時期の開催にもかかわらず、看護師、助産師、臨床心理士、認定遺伝カウンセラー、記者など他職種にわたる39名の方にご参加いただきました。

今年度は、講師に荒木晃子先生（立命館大学グローバル・イノベーション研究機構）をお迎えし、「生殖看護に役立つカップル・カウンセリング」をテーマに、演習も含めて家族療法の実践と応用をご講義いただきました。不妊心理の独自性を構成する要因、不妊心理へのアプローチを学んだ後、そのアプローチのひとつである家族療法について、事例を用いてロールプレイを行いました。不妊の問題を個の問題からカップルの問題へシフトし、家族の問題として再提起する重要性を学ぶことができました。また、ロールプレイで不妊の当事者、家族、看護師など様々な立場での思いを体験し、感じたことを言葉にして他者と共有することで、よりよい看護について深く考える機会となりました。今回の学びは、不妊治療の現場のみならず、周産期の現場や地域の育児支援の現場など、あらゆる場面で不妊の問題を抱えるカップルを支援する際に活かせるものと感じます。

## 第8回九州地区勉強会 報告

報告者：熊本大学医学部附属病院 本田万里子

去る1月30日、第8回九州地区勉強会を開催しました。当日は雪の悪天候に関わらず48名と多くの方に御参加いただきました。カウンセリングオフィス KR 代表の田中京子先生を講師に招き、「支援者のためのストレスマネジメント」をテーマに講義形式での研修を行いました。前半は、6つの遺伝的気質、a. 循環気質（チンパンジー＝モテタイタイプ）、b. 粘着気質（ゴリラ＝セワヤキタイプ）、c. 自閉気質（チンパンジー＝マイペースタイプ）、d. 執着気質（キッチリタイプ）、e. 不安気質（ピリピリタイプ）、f. 新奇気質（イキナリタイプ）に基づき、自分または身近な人の気質を理解した上で行うセルフコントロールの方法や他者を理解し人間関係を良好に保つ付き合い方などについて学びました。「あの人はまさしくゴリラタイプだ。」と自分はさておき他人を客観し笑える部分もあり、楽しく学ぶことができました。後半は、心理行動性チェックリストを通して自分のストレス耐性について理解し、ストレスマネジメントのためのイメージワークを行いました。自分の行動目標が、相手に勝つ－他者報酬追求型（成績目標）、自分に勝つ－自己報酬追求型（達成目標）のどちらかでストレスの質（他者報酬追求型：疲弊型ストレス、自己報酬追求型：成長型ストレス）が違って来る。行動目標イコール生き方のバランスが重要であることがわかりました。最後に、吉田先生から全ての気質に共通なセルフ行動として、「認められるために頑張るのではなく、人生が愉しいと思えるように生きる」というメッセージを頂きました。悩みを多く抱える不妊症患者を支援する私たちが、自己を見つめ愉しい人生を送ることの大切さを改めて認識しました。

研修後のアンケートでは、看護実践、自己の精神健康管理に役立つ内容であったとの回答が多く、参加者の公私に役立つ、満足の得られる研修になったのではないかと思います。また、今後の勉強会運営に関しても貴重なご意見を頂きました。これからも様々な視点から生殖看護に活かせる内容の勉強会を企画していきたいと考えています。来年度も御協力よろしく申し上げます。

## 各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成いたします。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

〈連絡先〉森 恵美 mori@faculty.chiba-u.ac

阿部正子 abe\_masa@md.tsukuba.ac.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

筑波大学大学院人間総合科学研究科

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL/FAX：029-853-3440

TEL：043-226-2410 FAX：043-226-2414

## 理事会報告

### 第1回理事会

日時：平成22年10月29日（金）18時30分～20時10分  
場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム  
出席：森明、村本、遠藤、上澤、岸田、長岡、野澤、橋村、森恵、矢野

#### 【報告事項】

1. 教育推進委員会：第8回学術集会でアンケートを実施した結果、学術集会前日の午後、認定看護師向けのセミナーと共催での生殖看護実践セミナー開催を検討中。平成23年度より要項に則り勉強会等の助成を開始予定。
2. 広報委員会：ニュースレター原稿の締切は2月7日（No.28）、6月6日（No.29）、10月7日（No.30）。No.29、No.30の特集記事を検討中。
3. 第8回学術集会：参加者は184名。参加者へのアンケートの結果は概ね高評価。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：2名の新規入会を承認。
2. 幹事：将来検討委員会、会計の幹事各1名を承認。

### 第2回理事会

日時：平成22年12月11日（土）18時00分～19時50分  
場所：聖路加看護大学2号館5階ミーティングルーム  
出席：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、長岡、野澤

#### 【報告事項】

1. 編集委員会：投稿数少数のため、学会誌第8号の投稿締切日を延長中。
2. 将来検討委員会：平成22年度研究助成の公募期間は4月1日～6月30日とする予定。
3. 看保連対応WG：12月21日開催の技術検討委員会へ参加予定。

#### 【審議事項】

1. 入会審査：3名の新規入会を承認。
2. 不妊症看護認定看護師教育課程入学応募者増員に向けて検討。

### 不妊症看護認定看護師 リレー寄稿

No.  
9

### 認定看護師5年を経過して

福島県立医科大学附属病院 尾形 優子

不妊症看護認定看護師3期生の尾形です。私は以前、助産師として産科病棟に勤務していました。その中で、不妊治療後の妊婦さんや、体外受精を受ける患者様と関わるうちに、不妊症看護に興味を持つようになり認定看護師となりました。今年で5年。ドキドキの更新審査を終えたところです。審査を終え、5年間で自分が実践できたことと、これらの課題が見えてきました。そこで、私の現在の近況と、これからの課題について話したいと思います。

3年前に産科病棟から移動し、現在私は、産婦人科外来で勤務しています。一般の外来業務をしながら、1日1組を限定に、完全予約制で不妊相談を受けています。内容は、不妊に関する悩み・不妊の検査や治療の説明・ステップアップの相談などです。

相談の中には、「このまま治療を続けていても妊娠できなかったらどうしよう」「治療をやめるのが怖い」「夫は体外受精まではしたくないと。私は試したいのに」「治療が辛い」など、先の見えない不安や、治療に対する苦痛や悩み、ご夫婦の治療に対する意見の相違などを訴えられる患者様が多くみられます。不妊治療は開始するのも終結するのも患者様が自己決定しなければなりません。患者様の生活背景、身体的・精神的状態を把握し、情報の提供を行い、ライフサイクルに合った治療の選択を支援しています。必要に応じ医師とのカンファレンスも行っています。また、相談を受ける中で不妊に関する不安や悩みを表出することで患者様の精神的負担の軽減に努めています。

その他の活動としては、院内の看護師を対象に、不妊の勉強会を行ったり、県の主催する不妊セミナーの個別相談に応じたりしています。

今後の課題は、外来の業務に関することです。当院では、3年前より外来診療部門が独立しており、外来看護師が様々な診療科をサポートする体制がとられています。そのため、生殖医療に関する知識が少ない看護師が産婦人科外来を勤務することもあります。業務の中では、重症度の低い不妊症患者様への看護は優先度が低くなりやすいのが現状です。この現状の中、誰もが一定の不妊症看護を提供することができるようになるためには、どうしたら良いか、私の課題となっているところです。

次は、同じ3期生の横田美穂さんにバトンを渡したいと思います。では、横田さん、お願いします。

## もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考にしていただけるよう、相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

### ◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善（相談室開設など）にともなう相談 など

### ◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp>) にアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

## 事務局からのお知らせ

今春転居・転職予定の方は  
変更届をお忘れなく

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX: 03-6226-6380 もしくは E-mail: [jsin@slcn.ac.jp](mailto:jsin@slcn.ac.jp) まで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

## 重要 会費の納入をお願いします

平成22年度会費（平成22年9月1日～平成23年8月31日の諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。

口座番号：00170-2-333413 加入者名：日本生殖看護学会 年会費：6,000円

\*ニュースレターに「払込取扱票」を同封してあります。過年度分が未納の方には今年度分との合計額を印字しておりますので、払込取扱票に表示されている金額の納入をお願いいたします。入金確認の時間差もあることから、表示された金額が払込事実と合わない場合には事務局までご連絡ください。

### 編集後記

入試シーズンまっさかりですが、皆さんの周りでも結果に一喜一憂していらっしゃる方がいることでしょう。これまでの努力が報われることを祈るばかりです。

この冬は寒さが厳しく、各地で豪雪被害も出ました。現在は、新燃岳の噴火が続いています。終息までに長期間を要するのではないかとわれ、そこで生活している方々の不安は計り知れないことでしょう。このような自然の災いに対し、人は受け入れることしかできない存在かもしれません。しかし、何か出来ることがあるかも…。

このような暗いニュースの合間で、梅の花の開花を知らせるニュースが飛び込んできました。近隣の木々の芽も膨らみ始めました。季節は、確実に春に近づいています。

(広報委員：野澤美江子、矢野恵子)

## 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail [jsin@slcn.ac.jp](mailto:jsin@slcn.ac.jp)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>